



学校だより

「みんな花笑み」

- 「知」 主体的に考え粘り強く取り組む子を育てます。
「徳」 自分を大切にし、互いの違いを認め合える子を育てます。
「体」 心身ともにたくましく生きていく子を育てます。
「公」 まちを愛し、人とつながり、ともに創造する子を育てます。
「関」 広い視野をもち、自分の思いをのびのびと表現する子を育てます。

令和6年1月31日

横浜市立菅田の丘小学校

校長 若山 京子

2月号

[如月 February]

スポーツしようぜ!

副校長 白井 亮司

1月20日(土)に、本校校庭で、スマイルどんぐりサポーターズ主催「親子ランニング教室」が開催され、わたしも参加しました。その教室の最後に、講師の齋藤雄太郎さん(箱根駅伝の出場経験有!)と競走するプログラムがありました。距離は校庭5周、ハンデをつけてスタートする齋藤さんに抜かれないように走るといいます。わたしは2周半ほどしたところで抜かされてしまいました。後ろから迫ってきてあっという間に抜き去る齋藤さんの“圧”はすごいもので、「これが箱根駅伝選手の走りか」と驚きました。その後も走り続け、無事5周を走り切ることができました。距離にすれば600mほど、大した距離ではないですが、走り切った爽快感は格別でした(参加した子どもたちも全員(1年生も)、同じ距離を走り切りました。すごい!!)。

先週、運動委員会が企画・運営した長縄集會が行われました。当日は練習の成果が発揮され、リズムよく縄を跳ぶ姿が校庭中で見られました。ある学級の事前の練習に参加しましたが、失敗した子を責めるような言葉は一言も聞かれず、温かな言葉(跳べた子に「OK!」「上手だね」などと称賛の言葉、失敗した子に「ドンマイ」「大丈夫?」などと気遣い励ます言葉、「あと〇回で記録更新」などとみんなの気持ちを高める言葉等)がたくさん聞かれました。集會当日も、それぞれの学級で同じような言葉が交わされており、最高記録を目指す真剣さと、お互いを思い合う温かさがあふれる集會となりました。一人ひとりが「縄を跳ぶ」技能を向上させるとともに、目標に向けて気持ちを一つに団結する姿や互いのがんばりを認め合ったり記録を喜び合ったりする姿はもちろん、競技前に円陣を組み気合を入れる学級、これからも練習を続け記録を伸ばしたいと話した学級が見られる等、学級の絆も深まりました。



26日(金)には「神奈川県球技交流会」が行われ、5年生がサッカーとソフトバレーボールを通し、羽沢小学校の子どもたちと交流しました。コロナ禍で中止されていた行事で、4年ぶりの実施でした。わたしはサッカーの線審を担当し、子どもたちの勝利を目指す真剣なプレー、同じ学校のチームを応援する大きな声援やよいプレーに敵味方関係なく贈られる拍手や歓声等、子どもたちの素敵な姿を間近で見ることができました。また、閉会式では両校の代表が「いつもとは違う相手と試合ができて、楽しかった。」「中学校に行ったら一緒になるので、また他のことでも交流したい。」と話しました。子どもたちの姿や言葉から、この行事を通しての成長を感じるとともに、今年度実施できてよかった、来年度以降も継続して実施していきたいと強く思いました。

文部科学省が示した「第2期スポーツ基本計画」には、【国民には、「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、それぞれの人生を生き生きとしたものとするを期待する。】と書かれています。上に書いたように、子どもたちはスポーツに積極的に参画しており、そこで見られる自分を成長させたり、仲間との関係を深めたり、仲間のために貢献したりしている姿から、スポーツのすばらしさや価値を改めて感じています。

来年度5月の新校舎移転後は、しばらく校庭が使用できません。様々な制限がある中で、子どもたちがスポーツに関わる機会をもてるよう、学校でできることを検討していきたいと考えています。